＃　犯人と戦う武器は心理学

＃　記憶は嘘をつかない

Profile

科学捜査研究所　文書心理科
平成31年採用　警察行政職員
法政大学　臨床心理学科　卒業

＃　やりがい

文書心理科職員としてのやりがいは、日々の業務が県民の安全･安心のためであると実感できる点だと思います。警察官のように直接犯人を逮捕し、事件を直接解決することはありませんが、その逮捕や解決の一端を担っていることを誇りに感じて日々の業務にあたっています。

＃　警察行政職員になったきっかけ

一言で言うと「好きな学問の知識を活かして人や社会の役に立つことができる」からです。大学で心理学を勉強していた時に、科捜研における心理学を活用したポリグラフ検査があることを知りました。

私の出身地である関東地方での就職も考えていましたが、働く場所よりも、自分が興味ややりがいを感じられるかどうかが重要だと考え、科捜研の募集があった福岡県警を受験しました。

＃　印象に残るエピソード

私が主に行っているポリグラフ検査は、犯人だけが知っている事件の内容について認識しているかどうか鑑定する「記憶」の検査です。私が担当した、ある性犯罪事件の被疑者が、検査前は否認していたものの、検査後に自供して逮捕されたことがありました。犯人逮捕に貢献できたことを実感すると共に、検査本番だけでなく検査に至るまでの準備期間も無駄ではなかったと胸が熱くなりました。

＃　職場環境

現在私は、文書心理科の中で最も若手です。上司や先輩は、私の間違いやミスに対して、優しく、適切にアドバイスをしてくださるので、私のような若手が成長しやすい環境であると感じています。私のことを、常に気をかけてくださっていることが感じられるくらい、人情味あふれた人たちが揃っています。

＃　警察学校での生活

科捜研の職員は、他の警察行政職員の方と一緒に警察学校に約１ヶ月間入校します。入校前は厳しい教官、授業や規則を想像して不安に思っていました。しかし実際は、教官は厳しさの中にも優しさが伝わる指導をしてくださり、授業は興味深いものばかりで、警察学校の規則は、警察組織で働く職員として、また社会人としてあるべき姿に改めさせてくれるものでした。警察学校で共に生活した同期生とは、今でも食事に行ったり、野球をしたりするなどの交流があります。

＃　休日の過ごし方

基本的に土日祝日が休みです。職業柄休日に仕事が入ることもありますが、その分は平日に振替休日を取得しています。

休日には、科捜研の野球チームやフットサルチームに参加して練習や試合で汗を流しています。また、長期休暇を利用して定期的に東京都の実家にも帰っています。

＃　メッセージ

就職活動をする上で一番大切な事は、これさえ当てはまれば人生が充実し、後悔しないだろうと思える『軸となる条件』を決めることだと思います。私は『興味とやりがいを感じられる仕事』を軸に就活しました。軸が決まるまでは勉強したり、リサーチしたり多くの時間を使って良いと思います。ぜひ頑張って下さい。

警察組織はどの部署に所属しても県民の安全・安心に貢献できるやりがいのある業務内容だと思います。

ぜひ受験を検討してみてください。